議題（１）

他館のコンセプト事例及びコンセプトに即した機能事例

（説明資料）

昭　和　館
姫路市平和資料館

昭和館（1／6）

1. 基本情報

設立主体	国(厚生労働省)
運営者	一般財団法人日本遺族会
所在地	東京都千代田区九段南1-6-1
開館年月	平成11年3月27日
開館時間	午前10時～午後5時30分(入館は5時まで)
休館日	毎週月曜日、年末年始
入館料	一般:300円 ／高大学生:150円／中学生以下:無料

2. 設置理念等

《設置理念》

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

《基本的な性格及び事業》

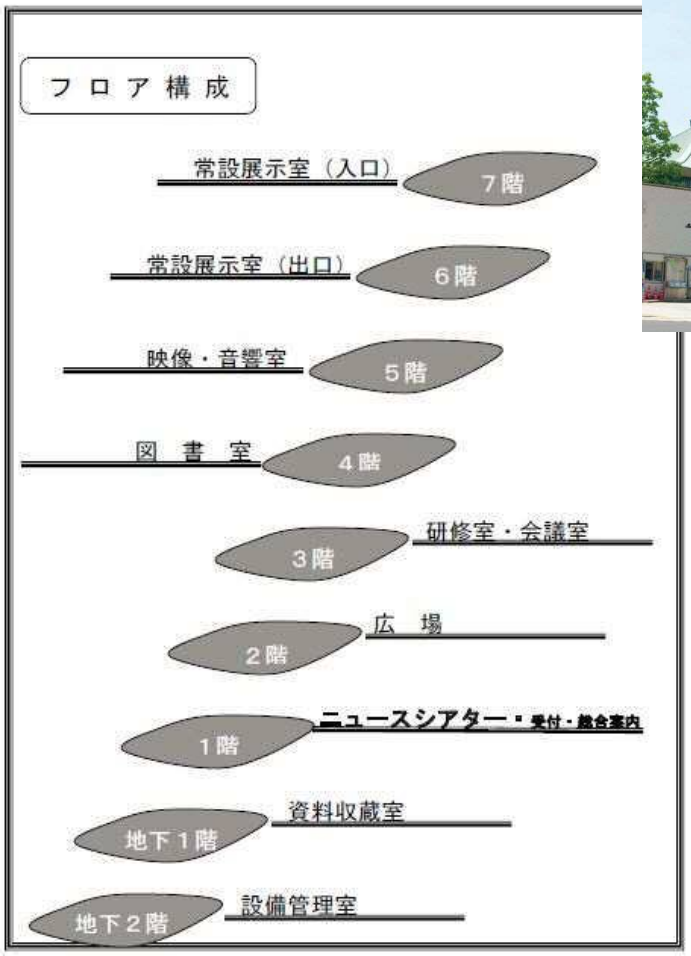
昭和５４年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。
これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもとに、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。
平成5 年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成１０年１２月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成１１年3 月末に開館した。
なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

昭和館（2／6）

3. 建築概要

規模	敷地面積 :2,138㎡／建築面積:1,288㎡／延床面積:8,514㎡
	常設展示室:1,587㎡
構造	鉄骨造、一部鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造　地上8階、地下2階建て
主要諸室	常設展示室、映像・音響室、図書室、書庫、研修室・会議室
	広場、　資料公開コーナー、エントランスロビー　等

施設外観



フロア構成図

昭和館（3／6）

4. 常設展示概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中のくらしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後のくらしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

① 戦前から戦中の国民の暮らし

1.家族の別れ
2.家族への想い
3.昭和10年頃の仮定
4.統制下の暮らし
5.戦中の学童・学徒
6.銃後の備えと空襲
7.和男君の防空探検
8.空襲の備え
9.昭和20年8月15日

② 戦後の国民の暮らし

1.終戦直後の日本
2.廃墟からの出発
3.遺された家族
4.子どもたちの戦後
5.復興に向けて
6.移りゆく世相　昭和10年～40年
7.慰霊の旅
8.体験ひろば
9.昭和館ギャラリー

昭和館（4／6）

5. 企画展示、その他主な教育普及活動

① 特別企画展等の開催

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

《平成27年実施例》

「昭和20年という年～空襲、終戦、そして復興へ～」

戦後70年となった本年、激動の昭和20年を1 月～8月8月15日前後、9月～12月の3つの時期に分け、国内の様子を実物資料の展示を中心に紹介。

② 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

③ 貸出キット

全国の各市町村教育委員会や都道府県遺族会事務局のほか、「昭和館だより」の発行に併せ全国約16，000の小・中学校、高等学校にポスターとチラシを送付するなど広報に努め、更なる利用を呼びかけた。

④ 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居とワークショップの要素を取り入れた体験型の上映会を、紙芝居師の森下昌毅氏ほかの演者により実施した。

⑤ 教員のための博物館体験

学校と博物館の連携を図ることを目的に、小中高校の教職員を対象とした博物館体験の日を実施した。

昭和館（5／6）

6. 展示手法の特色

A 膨大な実物資料の組合せにより、来館者に当時の生活を想像していただく展示手法

昭和館の展示の特色は、数多くの実物資料を並べることで来館者自身が戦中、戦後の人々の暮らしについて想像していただく、という点にある。

昭和館は現在約43,500点もの実物資料を所蔵しており、そのうち約700点を常設展示で公開している。シンプルな展示什器とすることで、資料の入れ替えを簡易に行えるようになっている。

実物や解説パネルが自在に展示できる什器システム

マネキンを活用したもの

実物資料展示

昭和館（6／6）

B　当時の生活の一端を体験できる展示手法

当時の生活を「見る」だけでなく、触ったり、動かしたりすることで実感をもって理解してもらうためのコーナー。「米つき」や「ポンプによる水汲み」、「バケツによる水運び」等、当時の生活の苦労の一端を感じられるアイテムを設置している。

その他にも、当時の生活道具を実際に手に取って触ったり、衣服を着てみることができる体験等も設置している。

米つき体験

ポンプ体験

防空頭巾体験

水運び体験

C　終戦直後の東京を視覚的に体験できる展示手法

常設展示室がある7階のエレベーターホールにおいて、戦後の焼け野原の状態をトリックアートの手法で再現。国会議事堂周辺が終戦直後、どのような状態だったのかを視覚的に訴える。

トリックアートコーナー

トリックアートコーナー

姫路市平和資料館（1／6）

1. 基本情報

設立主体	姫路市
運営者	姫路市
所在地	姫路市西延末475番地（手柄山中央公園山上）
開館年月	平成8年4月26日
開館時間	午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで）
休館日	毎週月曜日、国民の祝日の翌日、年末年始
入館料	一般：200円 ／小中学生：50円

2. 設置理念等

《設置理念》

姫路市では、太平洋戦争で亡くなられた一般市民を慰霊すると共に平和都市宣言・非核平和都市宣言を行い、平和施策を推進している。

戦後70年という年月の経過により、戦争体験が風化し、人々の記憶から悲惨な戦争と戦災体験が消えつつある。現在そして未来の平和は、過去の戦争とそれに伴う悲惨な事実に対する正しい理解と認識並びに全世界の人々との相互信頼のうえに成り立つものであり、歴史的事実を伝え続けていくことは、平和を維持していくために極めて重要である。このようなことから戦争の惨禍と平和の尊さを後世に伝え、平和な社会の発展に寄与するため、空襲に視点を置いた資料館を設置した。

《基本的な性格及び事業》

(1)空襲体験継承の場として

姫路の空襲による被災等に関する資料、文書、映像等を主体とした展示をする。

(2)平和に関する学習・教育の場として

平和教育の場としてこの施設の活用を図ると共に、戦争の悲惨さと平和の尊さについて啓発する施設とする。

(3)調査研究機能の場として

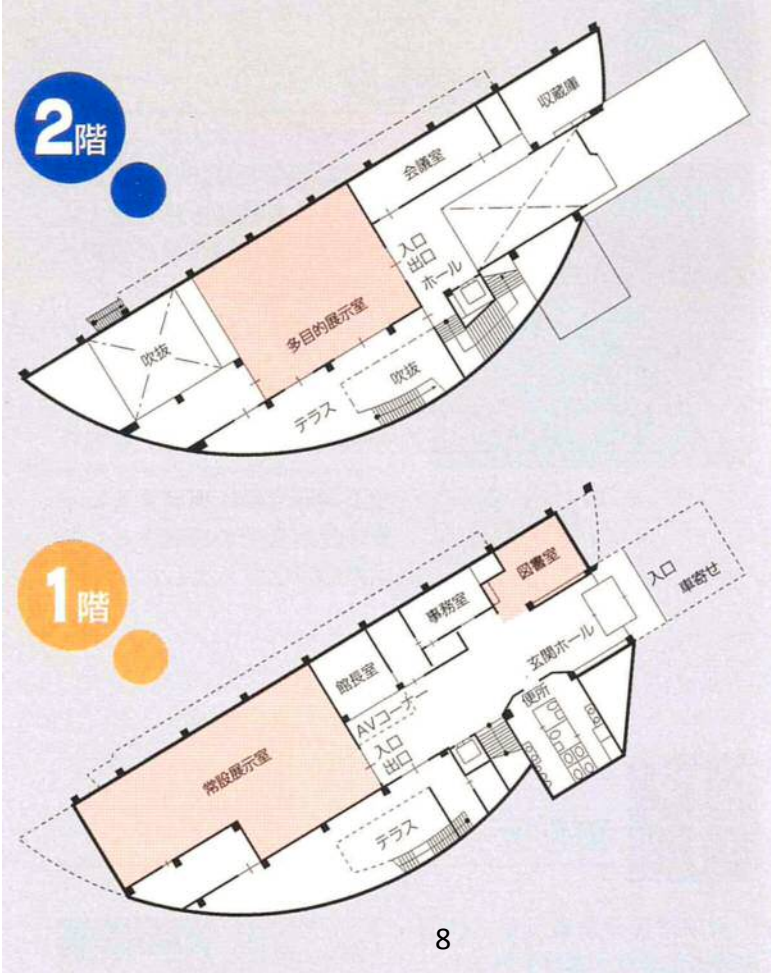
展示資料収集や平和学習指導などを充実させるための調査・研究機能を整備する。

姫路市平和資料館（2／6）

３．建築概要

規模	敷地面積 :1,716㎡／建築面積:818.4㎡／延床面積:1,139㎡
	常設展示室:224㎡／多目的ホール:180㎡
構造	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造　地上2階建て
主要諸室	1階 :常設展示室、図書室、AVｺｰﾅｰ、事務室　等
	2階 :多目的展示室、会議室、収蔵庫、倉庫　等

建物外観



平面図

姫路市平和資料館（3／6）

4. 常設展示概要

姫路というまちの明治維新後のあゆみを導入部に据えながら、太平洋戦争へと巻き込まれ、戦禍に見舞われたのち、復興を遂げていくという時系列でのストーリーを展開している。
特に、姫路のシンボルである姫路城を展示の軸としながら、市民生活という視点で戦時下、復興の出来事を紹介している。

① 美しい城下町、姫路

明治維新から満州事変以前、姫路は近代都市への第一歩を踏み出した。御幸通りの完成や鉄道の開通など、文明開化から近代へ躍進する姫路、その当時の活気に満ちた市民生活や街の様子を写真パネルで紹介する。

② 覆われた姫路城

日本全体が戦時体制に入り、迷彩のため姫路城に黒い網をかけるなど、姫路の街に戦争の影響が見られるようになった。その当時の街の様子や市民生活を立体模型のジオラマやパネルで紹介する。

③ 炎の中の姫路城

姫路は昭和20年6月22日と7月3日深夜から4日早朝にかけて二度の空襲に見舞われ、大きな被害を受けた。ここでは当時の民家、防空壕復元のほか、映像・音響・振動・ジオラマで空襲を再現した疑似体験装置で空襲の恐ろしさを体験できる。

姫路市平和資料館（4／6）

④よみがえる姫路城

昭和20年8月15日終戦。大空襲による被害を乗り越え、歩み出した姫路市民の復興への軌跡を追う。また、広島・長崎原爆投下直後、被爆者の治療、調査に力を注いだ都築正男医学博士の業績を紹介する。姫路市最初の名誉市民である都築博士は被爆者の治療のほか、原爆禁止国際会議に出席するなど原爆症の権威者として国際的に活躍した。

⑤　平和を祈って

太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔の模型を展示し、平和への祈りを込める。
また、姫路の子供たちが描いた非核平和をうったえる絵画を展示している。

5. 企画展活動

（1）春季企画展の開催

平成8年4月26日の開館を記念し、春季企画展を開催

（2）非核平和展の開催

姫路市の非核平和都市宣言の趣旨を市民に広くアピールし、平和について考える機会の提供の場として非核平和展を開催

（3）秋季企画展の開催

毎年10月26日、「太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式」が開催されることに伴い、その日を中心に秋季企画展を開催

（4）収蔵品展の開催

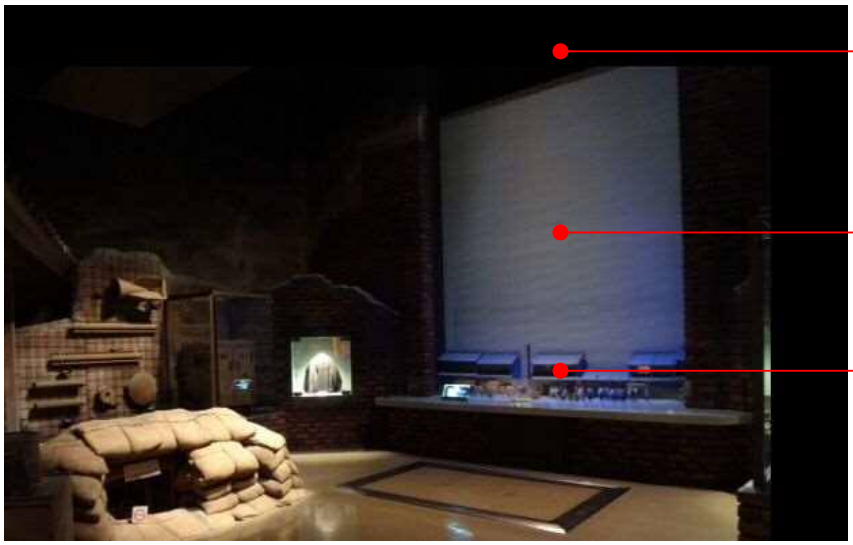
毎年、寄贈を受けた戦災資料を中心に収蔵品展を開催

姫路市平和資料館（5／6）

6. 展示手法の特色

A　ジオラマと映像、音響、照明の複合的演出により、空襲の恐ろしさを表現する展示手法

姫路市平和資料館では、戦争の悲惨さ、空襲の恐ろしさを体験していない世代に伝えていくことに重点を置き、より分かりやすい表現手法を取り入れている。
メインとなる空襲の展示においては、空襲から逃げる人々を表したジオラマを中心に背景となる映像、そして空襲警報やサイレン等の音響や照明等を合わせ、複合的な演出を用いて、その恐ろしさを表現している。



ジオラマを中心とした複合展示演出の全景

空襲の状況に併せて動くジオラマ

背景の映像が変化

姫路市平和資料館（6／6）

B　実物大の情景再現展示により、戦時下の姫路を疑似体験できる展示手法

姫路市平和資料館では、より臨場感をもって戦時下の姫路の様子を体感していただく為に一部の展示において、実物大の空間をそのまま再現した情景再現という展示手法を取り入れている。

戦時下の姫路の暮らしの1シーンとして防空壕を中心とした屋外の再現や当時の暮らしぶりを表現した屋内の再現を行っている。

防空壕等の屋外再現

暮らしぶりを表現した民家再現

C　来館者が平和を考える展示コーナー・ビデオコーナー

姫路の子どもたちが描いた絵画の展示やビデオコーナーの設置、戦争を知らない世代へ受け継ぐ場として、また、かけがえのない平和の尊さを学ぶ場として活用されている。

絵画コーナー

ビデオコーナー